

研究動向

母親の育児ストレスに関する研究の動向

坂口由紀子

目次

I. はじめに

II. 母親の育児ストレスとその要因

1. 母親に育児ストレスをもたらす要因

1) 父親の協力的関わりと育児ストレス

2) 「父親の協力」に対する夫婦間の認識のずれと母親の育児ストレス

3) 「父親の協力」に対する夫婦関係の認識のずれと夫婦関係

4) 夫婦関係と母親の育児ストレス

2. 母親の養育行動に影響する要因

3. 父親の協力的関わりに影響する要因

III. おわりに

I. はじめに

近年わが国では、女性の社会進出や核家族化、少子化が進む中で、子育て環境が大きく変化してきている。核家族化の進行によって母親は孤立し、育児や家事などの物理的・心理的負担を一人で抱えてしまう傾向にある。¹⁵⁾ 日本労働研究機構が2003年に実施した全国調査によると、母親の就労の有無と関わりなく9割の母親が育児にストレスや不安を感じており、4割の母親が育児ノイローゼや産後うつではないかと思った経験を持っていた。²⁰⁾ 母親の育児ストレスは子どもの虐待にまで発展することもあり、最近の深刻な問題となっている。¹⁵⁾ 母親の育児ストレスの原因について様々な観点から検討されているが、単一の原因だけでは説明ができず、いくつかの要因が関連していることが報告されている。ここでは、先行研究によって明らかにされた育児ストレスを及ぼす要因について関連を整理する。ここでいう育児ストレスとは、育児をしている親の精神状態が悪い状態であり「(育児) ストレス」「(育児) 不安」「精神的ストレス」「抑うつ」を含む。また、

父親の協力的関わりとは、父親による家事育児の実施と母親への精神的サポートのことであり「父親(夫)の育児参加」「父親の(育児) 協力」「夫からの(育児) サポート」「夫の支援」を含む。

II. 母親の育児ストレスとその要因

1. 母親に育児ストレスをもたらす要因

先行研究で明らかにされた母親の育児ストレスへ直接的または間接的に影響する要因は、①ストレス解消②援助者③夫に対するコミュニケーションスキル④家事と育児における性役割の理想と現実の差⑤父親の協力的関わり⑥夫の支援の満足度⑦「父親の協力」に対する夫婦間の認識のずれ⑧夫婦関係であった。これら育児ストレスの要因には、独立した関係や相互作用する関係が見られた。

田中ら¹²⁾が乳幼児を抱える専業主婦215名を対象に調査した結果、家事・育児に対するストレスを自覚している者は約8割であり、ストレスを解消できていない者が、全体の約3割であった。ストレスが解消できていない者ほど訴え率が高かった。ストレスが解消できていない理由として、「自分の自由時間がないこと」が最も多かった。社会的資源の利用の有無による疲労度に差はなく、援助者が少ないほど「抑うつ感」「慢性疲労」の平均的訴えが多かったという結果から、専業主婦にとって直接的な育児からの解放がストレス解消の鍵になると考えられる。

石ら⁵⁾が、夫に対するコミュニケーションスキルと育児不安の関係について、0～6歳の保育園児をもつ母親100名に調査した結果、母親(妻)の「育児不安」は母親(妻)の人格的成熟性を示すコミュニケーションスキルの「統制」により軽減されることが明らかになっ

た。母親（妻）の精神的安定を保ちストレスを抱えないためには、母親（妻）自身の人格的成熟性が鍵になると考えられる。

山口ら¹⁾が、性役割と精神状態の関係について、育児支援事業に参加している6か月児をもつ母親39名を対象に調査した結果、家事および育児役割に対する母親の理想について「両親同等」と回答したものが最も不安や抑うつが強い傾向が示された。このことは現実的に父親の育児参加が少ないことが関係していると考えられる。また、家事と育児における性役割の理想と現実の差が大きいほど不安や抑うつが強かった。山口らの調査対象の61.5%が専業主婦であり、残り38.5%の中に育児休業中の母親が含まれていることから、この結果は専業主婦の傾向としてみることが可能かもしれないが、調査対象が育児支援事業に参加している母親に限定されているため信頼性に欠けるだろう。

1) 父親の協力的関わりと育児ストレス

父親の協力的関わりと母親の育児ストレスの関係について調査した先行文献では、使用した尺度の違いによって結果に多少の違いがあるが、すべてに共通して、父親の協力的関わりは母親の育児ストレスに影響があった。^{5) 11) 12) 18) 19)}

田中ら¹²⁾が専業主婦を対象に調査した結果によると、夫の育児参加が低い者ほど母親の「気力の減退」「イライラの状態」「労働意欲の低下」「抑うつ感」「慢性疲労」が高かった。

石ら⁵⁾が保育園児を持つ母親を対象に調査した結果によると、「夫からのサポート」のうち、「妻への援助」よりは「情緒的サポート」及び「家族へのかかわり」が母親の「育児不安」の軽減に強く働く傾向が明らかにされた。石らの調査対象のうち90%が就労している母親であり、この結果は就労している母親の傾向としてみることができるだろう。

尾形¹⁸⁾が2000年に報告した乳幼児（1歳

～6歳）をもつ夫婦476組を対象に調査し、父親の協力的関わりと母親の精神的ストレスの関係について変数相互の関係を分析したところ、共働き家庭においては、父親の協力的関わりの「子ども・妻とのコミュニケーション」は母親の精神的ストレスの「自己閉塞感」と、父親の協力的関わりの「家事援助」は母親の精神的ストレスの「心的疲労感」とそれぞれ負の相関傾向を示していた。専業主婦家庭においては、父親の協力的関わりの「子ども・妻とのコミュニケーション」は母親の精神的ストレスの「孤立感」と有意な負の相関を示していた。「子ども・妻とのコミュニケーション」という父親の協力的関わりに対し、共働き家庭と専業主婦家庭では、影響する母親の精神的ストレスが異なることが示された。専業主婦家庭において、母親の精神的ストレスの「孤立感」に影響するということは、生活形態の違いが原因の一つと考えられ、専業主婦は子どもの育児と家事に追われ家庭中心の生活を送っている状況が伺える。

一方、尾形ら¹¹⁾が2003年に報告した乳幼児（1歳～6歳）をもつ夫婦660組を対象に調査し重回帰分析した結果、父親の協力的関わりから母親の精神的ストレスには有意なパスが示されず、直接的な影響は認められなかった。しかし、専業主婦家庭と共働き家庭に共通して、父親の協力的関わりから夫婦関係へ、夫婦関係から母親の精神的ストレスへ有意なパスが示され、父親の協力的関わりが間接的に母親の精神的ストレスへ影響していることが示された。2000年と2003年では分析方法が異なることにより、父親の協力的関わりの影響について異なる経路が示されたが、直接的もしくは間接的に父親の協力的関わりが母親の精神的ストレスに影響することが認められた。

北村ら¹⁹⁾が、保育園に通園している4歳までの乳幼児をもつ204組の母親と父親を対象に調査した結果、父親の育児参加の度合いは、母親の父親に対する育児協力の満足度に関連があり、父親の育児協力に満足している母親は

育児不安が少なかった。よって、父親の育児協力を母親が肯定的に受け止めることが育児不安の軽減に関係していると考えられる。この結果から、父親の育児参加が母親の満足度を介して、間接的に育児不安に影響していると考えられる。北村らの調査対象のうち 80%以上が就労している母親であり、この結果は就労している母親の傾向として見ることができるだろう。

これらの研究から、母親が専業主婦である場合と、就労している場合で、母親の育児ストレスの内容や、父親の協力的関わりと母親の育児ストレスとの関係性に違いがあると考えられる。専業主婦の精神的ストレスの傾向としては、「自由な時間が無い」ことにストレスを感じる者が多く、性役割に対して「両親同等」であるべきだと思っている者ほど現実と理想の差からストレスが強い傾向にあり、父親の育児参加や父親の「子ども・妻とのコミュニケーション」が直接的もしくは夫婦関係を介して母親の「孤立感」「うつ傾向」「慢性疲労」「イライラの状態」に影響していることが示された。就労している母親の精神的ストレスの傾向としては、母親のコミュニケーションスキルの「統制」が「育児不安」を軽減させ、父親の「妻への援助」よりも「情緒的サポート」や「家族へのかかわり」が育児不安を軽減させ、父親の「子ども・妻とのコミュニケーション」が母親の「自己閉塞感」を軽減させ、父親の「家事への援助」が母親の「心的疲労感」を軽減させ、父親の育児参加が母親の満足度を介して育児不安を軽減させることが示された。

2) 「父親の協力」に対する夫婦間の認識のずれと母親の育児ストレス

尾形ら¹³⁾が 2002 年に報告した乳幼児（1 歳～6 歳）をもつ夫婦 415 組を対象に調査した結果によると、「父親の協力」に対する夫婦間の認識のずれと母親の精神的ストレスの関係について、共働き家庭では有意な相関や傾向が示されなかった。一方、専業主婦家庭では父親

の「子ども・妻とのコミュニケーション」に対する夫婦間の認識のずれが大きいほど母親の精神的ストレスの「不安感」「孤立感」「心的疲労感」が強く、父親の「家事への援助」に対する夫婦間の認識のずれと母親の精神的ストレスの「心的疲労」との間に正の傾向が見られた。このことにより、共働き家庭では夫婦ともに時間的にも肉体的にも比較的負担の多い生活を送っていることから、相対的に夫婦間の認識のずれが小さいことが予想されるが、たとえこれが大きい場合でも、互いを尊重しあう（我慢する）という関係が成立していることが考えられる。一方、専業主婦家庭では、それぞれが基本的に全く異なった生活を送っていることから、夫婦間の認識のずれを生みやすく、家庭中心の生活を送る母親にとっては、閉塞感が強くなる場合もあり、父親とのコミュニケーションに対する要望はとりわけ強いことが考えられる。¹³⁾

3) 「父親の協力」に対する夫婦関係の認識のずれと夫婦関係

「父親の協力」に対する夫婦間の認識のずれと夫婦関係の関係について、尾形¹⁶⁾が 2001 年に報告した調査結果によると、夫婦間の認識のずれがあり、父親が低い評定をしていたとしても、母親が高い評定をしている場合には、良好な夫婦関係を形成することが示された。母親の精神的ストレスと同様に夫婦関係においても母親が父親の協力的関わりを肯定的に受け止めることが関係していた。尾形ら¹³⁾が 2002 年に報告した調査結果を母親の就労別に見ると、共働き家庭と専業主婦家庭ともに、父親の「子ども・妻とのコミュニケーション」に対する夫婦間のずれが夫婦関係の「夫に対する尊敬と依頼」と有意な負の相関を示した。また、専業主婦家庭では、父親の「子ども・妻とのコミュニケーション」に対する夫婦間の認識のずれと夫婦関係の「夫婦間のコミュニケーション」との間にも有意な負の相関（あるいは傾向）が得られた。共働き家庭でも専業主婦家庭でも、

良好な夫婦関係を築く（維持する）ためには父親の「子ども・妻とのコミュニケーション」が重要であり、特に専業主婦家庭においてはその重要度が増すことが考えられる。

これらの先行文献から、夫婦間の認識のずれについて、共働き家庭と専業主婦家庭に共通して、父親の「子ども・妻とのコミュニケーション」に対する夫婦間の認識のずれが、夫婦関係の「夫に対する尊敬と信頼」を低下させることがわかり、母親の就労状況に関係なく、父親のコミュニケーションの重要性が示唆された。また、共働き家庭の場合は、夫婦間の認識のずれによる母親の精神的ストレスへの影響は見られないのに対し、専業主婦家庭の場合は、父親の「子ども・妻とのコミュニケーション」に対する夫婦間の認識のずれが母親の精神的ストレスの「不安」「孤立感」「心的疲労」を増強させると共に、夫婦関係の「夫婦間コミュニケーション」を低下させ、「家事への援助」に対する夫婦間の認識のずれが母親の精神的ストレスの「心的疲労」を増強させることが示された。このように「父親の協力」に対する夫婦間の認識のずれは専業主婦家庭においては特に重要な問題となり、母親の精神的ストレスと夫婦関係に対する影響力が大きいと考えられる。

4) 夫婦関係と母親の育児ストレス

夫婦関係と母親の精神的ストレスとの関係について、尾形¹⁸⁾が2000年に報告した乳幼児（1歳～6歳）をもつ夫婦476組を対象に調査した結果によると、共働き家庭と専業主婦家庭に共通して、夫婦関係の「コミュニケーションによる関わり」が母親の精神的ストレスのすべての項目と有意な負の相関を示し、夫婦関係の「共通の話題や趣味による関わり」が母親の精神的ストレスの「集中力の欠如」「心的疲労感」「孤立感」と有意な負の相関を示し、夫婦関係の「夫に対する尊敬と信頼」が母親の精神的ストレスの「自己閉塞感」「孤立感」と有意な負の相関（または傾向）を示した。それに加

えて共働き家庭では、夫婦関係の「共通の話題や趣味による関わり」が母親の精神的ストレスの「自己閉塞感」とも有意な負の相関を示した。このように、尾形の2000年の報告によると、夫婦関係と精神的ストレスの関係については、専業主婦家庭と共働き家庭で同様の傾向が見られた。

尾形ら¹⁹⁾が2003年に報告した乳幼児（1歳～6歳）をもつ夫婦660組を対象に調査した結果によると、共働き家庭と専業主婦家庭に共通して、夫婦関係の「対等な関係」がすべての母親の精神的ストレスと有意な負の相関を示した。それに加え、共働き家庭では、夫婦関係の「夫に対する尊敬と信頼」が母親の精神的ストレスの「自己閉塞感」「集中力の欠如」「孤立感」と有意な負の相関を示し、夫婦関係の「夫の多忙に対する不満」が母親の精神的ストレスの「自己閉塞感」「心的疲労」と有意な正の相関を示している。一方、専業主婦では、夫婦関係の「自分や家族に対する要望」が夫婦関係の「自己閉塞感」と有意な正の相関を示している。

2000年の調査結果では、共働き家庭と専業主婦家庭で同様の傾向が見られたが、2003年の調査結果では、共働き家庭と専業主婦家庭に特徴的な違いが示された。夫婦関係の「夫に対する尊敬と信頼」について、2000年ではどちらの家族形態においても母親の精神的ストレスとの関係が示されたが、2003年では共働き家庭のみに示され、専業主婦家庭では示されなかった。また、2000年では全体的に負の相関のみ示されていたが、2003年の結果では正の相関も示され、良くない夫婦関係が母親の精神的ストレスに良くない影響を与えることが示された。共働き家庭のみで、夫婦関係の「夫の多忙に対する不満」が、母親の精神的ストレスに良くない影響を与えていることが示された。このことから、共働き家庭では夫婦ともに多忙な生活の中で、母親が家事育児役割を多く負担していると感じている状況が伺える。一方、専業主婦家庭のみで、夫婦関係の「自分や家族に

対する要望」が母親の精神的ストレスに良くない影響を与えていることが示された。このことから、専業主婦家庭では母親が家事育児役割の殆どを負担しており、夫に対する要望が母親の中に滞っている状態が伺える。分析方法の違いによって、2000 年では良好な夫婦関係が母親のストレスに良い影響を与えることのみが示され、2003 年では共働き家庭と専業主婦家庭における、夫婦関係の精神的ストレスへの良い影響と悪い影響についてより具体的に示されたと考えられる。

これらの先行文献から、良好な夫婦関係は母親の精神的ストレスを軽減することが明らかにされ、夫婦関係が母親の精神的ストレスに及ぼす影響について具体的に示された。特に夫婦関係の「対等な関係」が共働き家庭においても専業主婦家庭においても母親の精神的ストレスのすべての項目を軽減させる働きがあることが示され、夫婦関係の「対等な関係」に影響する父親の協力的関わりの「子ども・妻とのコミュニケーション」の重要性が確認できた。

2. 母親の養育行動に影響する要因

夫の支援への満足度と母親の養育行動との関係について、八代ら²⁾が乳児をもつ母親 206 名（日本 72 名、韓国 134 名）を対象に調査した結果、日本及び韓国でも安心して主体的に育児に取り組んでいる母親は夫の支援への満足度が高かったことを示しており、母親の精神的ストレスと同様に母親の養育行動についても、母親が夫の支援を肯定的に受け止めていることが重要であると考えられる。

「父親の協力」に対する夫婦間の認識のずれと母親の養育行動との関係について、尾形ら¹³⁾によると、共働き家庭では、「父親の協力」に対する夫婦間の認識のずれは、母親の養育行動には有意な相関や傾向は見られなかった。一方、専業主婦家庭では父親の協力的関わりの「子ども・妻とのコミュニケーション」に対する夫婦間の認識のずれが、母親の養育行動の

「拒否的態度」と有意な正の相関を示した。また、夫婦間の認識のずれが大きいほど専業主婦家庭における母親の養育行動に好ましくない影響を与えることが示された。

父親の協力的関わりと母親の養育行動との関係について、尾形ら¹¹⁾によると、共働き家庭の場合、父親の協力的関わりの「家事への援助」が母親の養育行動の「威圧的態度」に直接的な要因として抽出された。父親が家事への援助をするほど共働き家庭における母親の養育行動の「威圧的態度」を抑える働きがあることが示された。専業主婦家庭では父親の協力的関わりが直接的な影響力を持つことが示されなかった。

母親の精神的ストレスと母親の養育行動との関係について、尾形ら^{11) 18)}によると、共働き家庭と専業主婦家庭で共通するものとして、母親の養育行動の「威圧的態度」に直接的な要因として抽出されたのは母親の精神的ストレスの「自己閉塞感」であり、母親の養育行動の「拒否的態度」の要因として抽出されたのは母親の精神的ストレスの「集中力の欠如」「孤立感」であった。それに加え専業主婦家庭では、母親の養育行動の「威圧的態度」には母親の精神的ストレスの「集中力の欠如」「孤立感」も直接的に影響する要因であることが示された。

乳幼児期における母親の養育行動は、世代間伝達の観点から次世代育成につながる重要な要素であると共に、虐待の傾向を知るための重要な判断基準とも考えられる。ここでも父親の協力的関わりが影響しており、父親の協力的関わりが直接的に母親の養育行動に影響すること、母親の満足度や母親の育児ストレスを介して母親の養育行動に影響することが示された。

3. 父親の協力的関わりに影響する要因

父親の協力的関わりに直接的に影響を及ぼすものとして、石ら⁵⁾が母親の夫に対するコミュニケーションスキルとの関連から調査した結果、夫に対するコミュニケーションスキル

の「記号化」は夫からのサポートの「情緒的サポート」「家族への関わり」「妻への援助」と中程度の正の相関がみられ、夫に対するコミュニケーションスキルの「解説」は夫からのサポートの「情緒的サポート」と弱い正の相関を示した。母親の持つソーシャルスキルが父親の協力的関わりに影響することが示された。

母親の就労との関係について、吉田ら⁸⁾が0～3歳までの乳幼児を持つ父親441名に調査した結果、母親が専業主婦ではなくて、会社員や公務員の場合に、父親の家事育児に参加している率が非常に高かった。

父親の育児観の現状として、佐野ら¹⁴⁾が1歳6ヶ月健診に来所した父母480組を対象に調査した結果、母親よりも父親の方が有意に伝統的な考えを有していることが示された。

父親の育児参加意識について、光田ら¹⁵⁾が産褥5～7日の初産婦の夫5名に調査した結果、初めての子どもを持つ父親の多くは育児に対して不安や怖さなどの思いを感じており、なかなか積極的になれない状況であり、社会からの強制や圧力によって育児参加を意識していた。

性役割態度と育児参加意識の関係について、塩澤ら³⁾が出産準備教育に参加した父母99名（母親57名、父親42名）を対象に調査した結果、性役割観が平等主義的な父親は育児家事実施意欲が高く、平等主義的な母親は父親への期待も高かった。

母親の収入との関係について、吉田ら⁸⁾が父親を対象に調査した結果、父親と母親の収入が同程度の場合に家事育児を同等に行うことの理想が高かった。

母親の就業とジェンダー平等の関係について、天童ら⁶⁾が保育園児を持つ父母390組を対象に調査した結果、妻がフルタイム労働及び収入が多い階層で夫と妻のジェンダー平等意識は高まる傾向があることを示した。さらに、「父親の育児参加」意識の高まりが、直ちにジェンダー平等と結びつくとはいえないことを示しており、父親の協力的関わりを促進するた

めには、育児参加意識だけではなく、ジェンダー平等や平等主義を高めることが重要だと考えられる。また、ジェンダー平等や平等主義を高めるには母親の就業や収入が大きく影響することが示された。

III. おわりに

先行文献の検討の結果、共働き家庭と専業主婦家庭では、父親の性役割態度に差があり、そのことが夫婦関係や父親の協力的関わりに影響を及ぼし、最終的に母親の育児ストレスや養育行動に影響を及ぼしていた。父親の育児参加意識は高まりつつある¹⁹⁾が、依然として父親の性役割分業意識が根強く³⁾、母親、特に専業主婦は家事育児負担が集中していることが予測される。そのような環境の中で、母親が前向きに育児に取り組むためには、母親のコミュニケーションスキルが父親の協力的関わりに影響する⁵⁾ことや、父親のコミュニケーションによる関わりが母親の精神的ストレスに大きく影響する¹⁸⁾ことから、夫婦間のコミュニケーションが重要であると考えられる。また、父親のどのような関わりによって、母親が安心して主体的に育児に取り組めるのか、専業主婦家庭と共働き家庭に分けて具体的方法を提示することで、父親へ支援していくことが重要ではないだろうか。

今回、母親の育児ストレスを中心に父親の協力的関わりと母親の養育行動の関連を調べた結果、母親の育児ストレスと父親の協力的関わりが母親の養育行動に影響を及ぼすことが明らかにされ、母親の育児ストレスと父親の協力的関わりには母親の就労状況や母親のコミュニケーションスキル、夫婦の性役割態度なども関係していることが示された。今後は母親の養育行動に影響する要因として、親の特性（性役割態度、ソーシャルスキル、就労など）、子どもの特性、親子関係、夫婦関係について詳しく調べる必要性が示唆された。

〔引用・参考文献〕

- 1) 山口（久野）孝子，堀田法子．（2007）．6 か月児をもつ母親の精神状態に関する研究（第2報）－性役割と精神状態との関連から－．小児保健研究，64（1）：11-17
- 2) 八代利香，吉留厚子．（2007）．日本と韓国における産後の母親に対する支援内容と満足度の2国間比較．母性衛生，47（4）：547-553
- 3) 塩澤真由美（山梨県立中央病院），石田貞子，萩原結花．（2007）．出産後早期における父親の育児家事実施意欲に関する研究－母親の期待・性役割態度・出産準備教育との関連－．母性衛生，47（4）：582-589
- 4) 清水嘉子（2006）．父親の育児ストレスの実態に対する研究．小児保健研究，65(1)：26-34
- 5) 石曉玲，桂田恵美子．（2006）．夫婦間コミュニケーションの視点からの育児不安の検討－乳幼児を持つ母親を対象とした実証的研究－．母性衛生，47（1）：222-226
- 6) 天童睦子，石黒万里子．（2006）．若い父親の育児参加とジェンダー意識－共働きカップルの育児意識調査の分析から－．名城大学総合研究所総合学術研究論文集，5：191-202
- 7) 笠井真紀，河原加代子，杉本正子．（2006）．夫の育児サポートと夫婦関係に関する予備的調査－東京都内 A 保健センターの1歳6ヶ月児健診に来所した母親とその夫を対象に－．日保学誌，9（2）：102-111
- 8) 吉田あけみ．（2005）．これからの「父親に対する子育て支援」を考える－広島における父親に対する子育て意識・実態調査からの一考察－．広島文教女子大学紀要，40：55-67
- 9) 尾形和男．（2004）．父親の母親の養育行動に及ぼす要因に関する再考－父親の家事への援助、家族とのコミュニケーションを中心とする分析－．学校法人昌賢学園論集，3：71-85
- 10) 尾形和男．（2003）．子育てへの父親の協力的関わり、夫婦関係と家族機能との関連－夫婦の認知のずれに基づく分析的検討－．学校法人昌賢学園論集，2：93-116
- 11) 尾形和男，宮下一博．（2003）．母親の養育行動に及ぼす要因の検討－父親の協力的関わりに基づく夫婦関係、母親のストレスを中心にして－．千葉大学教育学部研究紀要，51：5-15
- 12) 田中満由美，倉岡千恵．（2003）．乳幼児を抱える専業主婦の疲労度に関する研究－ストレス・育児行動・ソーシャルサポートに焦点をあてて－．母性衛生，44（2）：281-288
- 13) 尾形和男，宮下一博．（2002）．「父親の協力」に対する夫婦間の認識のずれと夫婦関係及び家族成員の適応との関連．千葉大学教育学部研究紀要，50：9-19
- 14) 佐野和香，我部山キヨ子，池田浩子，宮崎つた子，矢野恵子，杉本陽子．（2002）．現代日本における父母の育児観とその影響因子に感ずる研究－1歳6ヶ月児の母親と父親の比較－．母性衛生，43（2）：387-394
- 15) 光田咲子（日本赤十字社医療センター），村上明美（日本赤十字看護大学）．（2002）．初めての子どもを持つ父親の育児観．母性衛生，43（1）：67-72
- 16) 尾形和男．（2001）．「父親の子育てへの関わり」についての夫婦間の認知のずれと夫婦関係、家族機能及び父親の変化との関連．群馬社会福祉短期大学紀要，5：63-87
- 17) 桑名行雄，桑名佳代子．1歳6カ月児をもつ父親の育児ストレス－親役割認知および性役割態度との関連－．こころの健康，21（1）：42-54
- 18) 尾形和男．（2000）．母親の養育行動に及ぼす夫婦関係と母親の精神的ストレスについての検討－共働き家庭と専業主婦家

庭の比較一. 群馬社会福祉短期大学研究紀
要, 4 : 97-121

- 19) 北村愛子, 佐鹿孝子, 大久保ひろ美, 佐藤はつ子. (1999). 父親の育児参加と母親の育児不安との関連—204 組の夫婦のアンケート調査より—. 山梨県立看護大学短期大学紀要, 5 (1) : 61-76
- 20) 生活情報センター編集部. 子育て支援データ集 2005 年版